

# 安全・安心な古志原のまちづくり

松江市古志原公民館

## 1 古志原公民館の概要

古志原地区は、松江市南東部の緩やかな丘陵地に位置し、戦後急速に住宅地として開発された人口約13000人、世帯数約5500世帯の地域である。少子高齢化が徐々に進行し、小学生はピーク時約1200人から700人に減少、高齢者数、独居高齢者数などは松江市で最も多くなっている。

古志原公民館は、昭和56年に創立、昭和60年に現在の新館が竣工した。平成19年度から指定管理者制度による公設自主運営の公民館として、安全・安心、福祉、子育て・青少年育成などの地域課題を「目的縁」として地域縁と融合させた取り組みを進めている。

## 2 事業の概要

### (1) はじめに

① 実証事業名 安全・安心な古志原のまちづくり事業

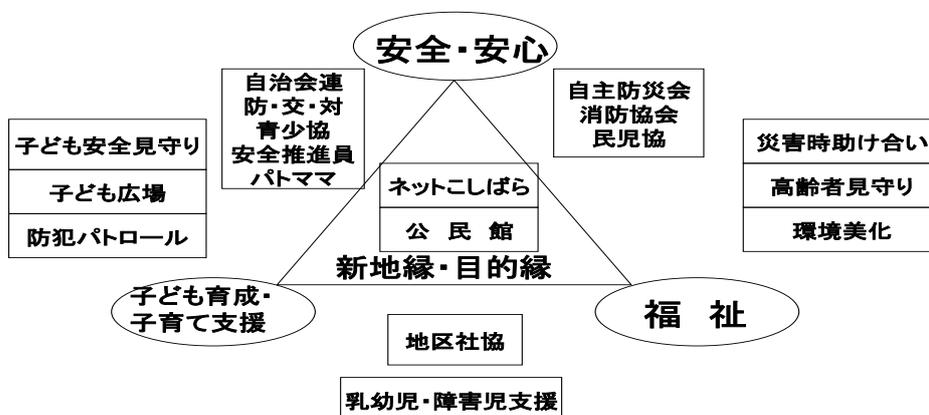
② 実証事業のテーマ

- 地域縁と目的縁の融合で、安全・安心なまちづくり
  - ・公民館が核となって「安全・安心ネットこしばら」を組織化
  - ・「子ども安全見守り隊」による見守り、防犯活動
  - ・「助け合い古志原」による災害時等の助け合い組織づくり

③ 実証事業のねらい

地縁、血縁関係の少ない地域における地域力醸成のため、地域縁に加えて目的によって人々が繋がる目的縁を形成し、強化する。地域住民が目的とするのは、安全・安心、子どもの健全育成、福祉などである。なかでも、最も幅広い願いである安全・安心を志向した各種事業を展開することにより、地域住民の連帯を生み出し、強めることによって、地域力の向上を図る。

## 「目的縁」によるまちづくり



## (2) 具体的な取り組み

### ① ネットワーク会議(委員会)

地域諸団体、諸機関など住民総参加型組織「安全・安心ネットこしばら」のネットワーク会議を3回開催し、事業企画、連絡調整、情報交換などを進めた。企画、安全見守り、防災の各部会などとおして、地域安全に関する現状を共有し、取り組むべき課題を明確にし、各組織、機関で協力して活動を進めた。

### ② 「子ども安全見守り隊」

組織・活動強化のため、公民館だより等で隊員を募集、ベストを100着購入し、隊員に貸与、見守り活動に活用した。見守り隊員は徐々に増え、活動も日常的に行われるようになった。



### ④ 災害時の支え合い組織「安全・安心助け合い古志原」

要援護者の登録、支援者の研修を重点的に進めた。自主防災会としてきめ細やかに支え合う小地域もできた。今年度、松江市全体の登録制度が始まったことで、要援護(登録)者、支援(登録)者とも飛躍的に増加しつつあり、近隣の住民同士支え合う意識が強まっている。

### ⑤ 安全講習会

安全・安心な地域づくりには、住民自身が安全を確保する力を備えることが必要であることから、防犯交通対策協議会が中心になって、幼稚園、保育所、小学校、PTA、子ども会等で交通安全、防犯に関する講習会を実施した。高校生の自転車通学の指導にも当たった。

### ⑥ 「防災研修会」

地区社会福祉協議会と共催で4回開催し、社会福祉関係者、災害時支援者など多数の参加があった。

ア「防災基本講習会」は、松江市職員を講師に開催、45名が参加した。災害に対する心構えや避難時の携行品など防災に関する基本を身につける講習になった。

イ「応急手当講習会」は、松江市消防本部の指導で実施、30名の参加があった。救急救命法、AED使用法、応急手当法など実習を含めて研修した。

ウ「災害時高齢者生活支援講習会」は、日赤島根県支部の指導で実施、23名の参加があった。生活支援のあり方は、日常の高齢者の支援とも深く関わる内容であった。

エ「被災地視察研修」は、鳥取県日南町の「鳥取県西部地震展示交流センター」へ、24名の参加で実施。被災地の生々しい状況に接し、災害時に備える意識、心構え、準備の大切さ等を学んだ。

### ⑥ 地域の美化活動

小中学生、PTA、青少年育成協議会、県立松江工業高校生、地域住民などにより例年より幅広く実施し、参加者も多かった。

- ア 小中一貫教育の一環として小中学生とPTAによる通学路清掃を7月に実施。親子100人を超える参加者があった。
- イ 青少年育成協議会とPTAの共催による清掃活動は、11月に通学路の安全点検を兼ねて実施。約180人の親子が通学路を中心に清掃作業を行った。通学路の危険箇所などについても具体的に確認した。
- ウ 高校PTAと公民館が中心になり、県立松江工業高校生と地域住民による清掃活動を10月に実施。雨天にもかかわらず100人近い参加があり、周辺の道路のゴミ拾いを行った。高校生の熱心な態度に、住民から賞賛の声が聞かれた。
  - ⑦ 落書きの点検活動により、国道下のトンネル内に大規模な落書きが発見されたので、1週間後に建設省の担当者と地域安全推進員、中学生の協力により消去活動を実施した。

### 3 事業の成果と課題

- (1) ネットワーク会議(委員会)で行った交通安全、防犯などに対する情報・活動の交流は、地域の安全に関する現状を認識し、課題を明確化させ、各組織で取り組む参考となった。地域全体の課題を共有し、対策を連携・協働して推進するために、今後一層充実させること、災害や犯罪など緊急時に連絡できる体制づくりなどが今後の課題である。
- (2) 子どもの安全見守り活動は、地域全体に定着し、毎朝子どもの登校サポートや下校時に散歩しながら見守る活動、青色回転灯装着パトロールなどが日常的に行われるようになった。これまでのブルゾンに加えて、ベストにしたことで暑い時期の見守り活動がしやすくなった。ベスト購入・配布にあわせて新たに隊員を募集し、活動も活性化した。同じベストや帽子を着用していることで、お互いに仲間意識が生まれ、子どもが安心感を覚え、挨拶や感謝の言葉を発するようになるなど、地域の人間関係を深め、連帯感を醸成する大きな力になった。特に、大雪の日に通学路の除雪をした地区が数カ所あり、子ども、保護者、学校関係者から感謝された。

見守り活動の組織を質量ともに一層強化し、一斉に安全点検や見守りができること、緊急時の出動体制ができることなどが今後の課題である。
- (3) 交通安全、防犯などに関する研修会は、学校、園主催の全員参加の講習が主である。PTA主催の自転車の安全な乗り方教室や子ども会主催の安全教室なども今後充実していきたい。自転車道の整備も進んでいるので、高校生の自転車運転マナーアップにも一層力を入れたい。
- (4) 災害時要援護者支援組織づくりは、大きく進展する年になった。「安全・安心助け合い古志原」とほとんど同じ事業である「松江市災害時要援護者登録制度」が今年度スタートしたので、二制度を統一して推進することとし、登録の促進を進めた。調査中である障害者手帳保有者を除くと、541名が登録、そのうち149名支援者登録が一人もない。今後支援者を確保すること、登録台帳の管理、支援者の研修・訓練など、この制度の円滑な運営に向けた取り組みを進めていく必要がある。
- (5) 防災研修会は、計画的に4回開催した。

防災の基本、応急手当、災害時高齢者生活支援、被災地視察など、それぞれ多数の参加者があり、知識、技術、心構えを学んだ。多数の支援者が参加しや

すい日時に開催することや、今後も継続していくことが課題である。

#### (6) 火災警報機の設置促進

自治会連合会、消防協会、自主防災会、地区社会福祉協議会4団体の共同事業として取り組んだ。自治会長会で担当者を招いて研修し、ちらしや公民館だよりなどで周知に努め、公民館が事務局になって機器や業者の選定、配布、集金等にあたった。取り組みの結果、当初予測の2倍以上に当たる2000個を超える設置ができたことは、地域の連帯感を高め、協力して取り組む価値を実感する機会になった。



#### (7) 美化活動

きれいな町は犯罪が少ないことをモットーにして、清掃活動に取り組んだ。

①小中学生とPTAによる通学路清掃は、7月に実施。200人を超える参加者があった。兄弟、親子、友人同士で活動することができ、絆が深まった。

②青少年育成協議会、PTA共催による清掃活動は、11月に通学路の安全点検を兼ねて実施。約100人の親子が通学路等の清掃作業を行った。親子が協力する姿が多く見られ、通学路の危険箇所の確認にもなった。

③工業高校生と地域住民の清掃活動は4年目になった。地域を挙げて取り組む喜び、高校生ボランティアの真剣に取り組む姿、毎年ゴミの量が減っていくことなどを実感した活動になった。

(8) 落書きを発見後速やかに消去したことは、今後の防止に繋がると考えられる。今後も関係機関・団体と連携し、発見、消去に努めたい。

### 4 今後の方向性

地域環境の向上には、住民同士の目的意識の共有を基に、自ら参加する意識をもち、協働で課題解決に取り組む住民の目的縁強化が必要と考え、安全・安心、福祉、子育て・青少年育成などを中心とした課題を目的として明確にし、住民同士の縁を強く、幅広く結びつけていくことに取り組んだ。

安全・安心な地域づくりは、地域住民挙げて取り組むべき課題であり、地域諸団体・機関が強いネットワークをつくり、協働で推進していく必要がある。公民館は、その中核となり、諸事業・活動の企画運営に努め、活動を支援していきたい。

特に子どもの安全見守りと災害時の助け合いを重点課題として取り組んだ。放課後や休日の子どもの安全で豊かな活動の場を提供し、それを支え、見守る地域住民が増えるよう、放課後子どもプラン、学校支援地域本部などの事業と併せて推進する。災害等いざというとき助け合う住民組織、特に支援者の確保と支援者の研修、訓練の機会の提供などを今後も実施する。これらの事業をとおして地域縁と目的縁の融合を推進したい。